

令和元年度第1回札幌市男女共同参画審議会 議事録（概要版）

1 日 時 令和元年6月10日（月）午後6時から午後7時10分

2 場 所 札幌市役所本庁舎 6階 1号会議室

3 出席者 会長：梶井祥子  
副会長：藤村侯仁  
委員：工藤久美子、齋藤寛子、多田絵理子、  
前鼻守、光崎聡、柳澤緑  
（50音順・敬称略）  
事務局：市民文化局長、男女共同参画室長、  
男女共同参画課長ほか

3 議 題

- (1) 会長及び副会長の選出について
- (2) 第4次男女共同参画さっぽろプランについて

4 議事概要

…冒頭、審議会委員及び事務局の自己紹介を行ったほか、男女共同参画審議会の概要や札幌市における男女共同参画の推進体系等について、事務局より説明（推進体系については、資料2により説明）。

(1) 会長及び副会長の選出について（資料1）

…委員の互選により、会長は梶井委員に決定。同じく委員の互選により、副会長は藤村氏に決定。

(2) 第4次男女共同参画さっぽろプランについて（資料3、4、5）

…事務局より、資料をもとにプランの概要について説明。

（委員からの意見・感想等）

- 「男女の平等感」や「男は仕事、女は家事や育児という考え方」について等、市民意識調査に係る指標に関し、他の政令市ではどのような数値になるのか、参考資料があると良いのではないか。

（事務局回答）

→ほかの政令市において、同様のデータがあるかどうかの把握も含め、次回開催に向け検討させていただく。

- 「女性に対するあらゆる暴力の根絶」について、様々な年代の被害者がいると思うが、多様な年代の被害者に対する相談体制の充実として、なにか対策を行っているのか。

（事務局回答）

→特に若年層に対し、中学・高校・大学生等を対象に暴力の未然防止を目的に「デートDV防止講座」を行っているが、その際に相談窓口の周知等を行っている。

- 「男女の人権の尊重」について、「性的指向に関して起きていると思う人権問題」は内閣府のデータとなっているが、札幌市で調査したものはあるのか。(事務局回答)  
→性的マイノリティに関する調査については、各政令市等が行うにあたって「これが効果的」という調査手法も、未だ検討段階だと思っており、市ではこういった調査は実施していない。
- 結婚を機に退職する女性が多いと思うが、その後離婚をして復職するとなった場合、キャリアが継続されていないことを理由に、結婚前の半分以下の給与で働かなければならないことが多い。同じような能力を持っているはずで、一定期間仕事をしていけば、元の能力に追いつくのではないかというケースもあると思うが、継続したキャリアがないために給与が上がっていかない。
- 仮に離婚したとしても、正規雇用で復職できるなどのセーフティネットがしっかり整備されていれば良いのではないか。子育てをする女性に対し、正規雇用等、きちんと仕事に就けるような支援システムなど、女性への支援に関する視点も含め、男女平等について考えていければ良い。
- 暴力とはどういうことなのか、市民が具体的に認識できるような啓発が必要だと思う。「自分の思いどおりに動かすために無視をする、大声を上げる」など、「これも暴力なのか」と認識してもらえるような周知に力を入れてほしい。
- 「平手で打つ」ということについて、暴力だと思うかとの問いについて、「暴力の場合と、そうでない場合がある」と答える人が結構いるなど、若年層のみならず、市民の意識は暴力に対して甘いと思う。配偶者からの暴力や、子どもに対する暴力も含め、暴力というものに対して、どう立ち向かうかという視点から、本審議会で考えるのも良いと思う。
- 離婚後の女性のキャリアに関連し、一度キャリアをおりると、元のキャリアに戻れないというのは、男女問わないのではないか。問題は、結婚や出産を機に女性が仕事を辞めてしまう、女性の方に家庭の責任を負わせるという現状であると認識している。それも踏まえ、4次プランを通じ、男性側の意識、働き方、家庭への参画への認識を変えていければよいと思う。
- 取り巻く現状を改善するためには、オール札幌市の政策の中で色々な課題をやっていかなければならない。多様な働き方の推進に関しても待機児童の解消は必要だし、シングルマザーの支援という意味でも待機児童の解消は必要である。
- 男性の育児休業取得率が上がらないことに関しても、仮に男性が休業を取得して手当を給付したとしても、結局男女の賃金格差によって、女性のみの賃金では生活していけないという問題があり、最低賃金も含め、女性の相対的な賃金といった部分も改善していかなければならないのではないか。
- 「男女の平等感」に関し、比較的若年層に関しては固定的性別役割分担意識の改善は認知されてきているのではないか。ただ、意識は改善し、何かした

いと思っけていても、長年の慣行、生活の中で何をしたらいいのかわからない男性は多いと思う。

- 最近メディアでも触れられている「見えない家事」、例えばゴミ捨てについても、「用意されたゴミを捨てに行く」ことだけがゴミ捨てではなく、「家のゴミをすべて集め」て、「袋を新しく付け」て、そこまでやって初めてゴミ捨てである。そういった見えない家事の存在を、男性は知らないことが多く、ぜひ指し示して頂きたい。最初は少しずつからかもしれないが、徐々にできることを増やしていくことで、家事労働を含め、本当の意味での男女平等になっていくと思う。
- 子どもたちには、授業の中で「男性は仕事、女性は家事や育児というわけではない」と教えてきてはいるが、このデータを見るとあまり意識は変わっていないと感じる。授業だけではなく、持続可能な意識が保たれる社会でなくてはならないと思うので、札幌市として、男女共同参画社会の実現とはどういったものなのか、という啓発を常日頃からしていくことが大事なのではないかな。